

表面と真空(正式名称 Vacuum and Surface Science)執筆の手引き

2018年4月10日

公益社団法人日本表面真空学会

会誌「表面と真空(正式名称 Vacuum and Surface Science)」に投稿する際は、「投稿規定」及びこの「執筆の手引き」に従い原稿を執筆する。投稿は J-STAGE の投稿審査システムを用いて行い、手順の詳細フローは「Web 投稿の手引き」に記された手順に従う。

1. 投稿原稿の作成

1.1 原稿の構成

原著論文・解説・総合報告・研究紹介・技術紹介・講座の原稿は、「投稿原稿テンプレート」を用いて以下の順に表記すること。

- 1) 表題
- 2) 著者名
- 3) 所属機関
- 4) 所在地
- 5) Title
- 6) Author(s)
- 7) Affiliation(s)
- 8) Address
- 9) 英文要旨(和文要旨*)

原稿本文の要旨を英文で書く。原著論文、解説、総合報告、研究紹介、技術紹介は 150 語程度とする。ギリシア文字などの特殊文字の使用はできる限り避けることが望ましい。講座、談話室の原稿には英文要旨(及び和文要旨)は不要である。

*和文要旨は「英文要旨の和訳」とし、投稿票に記載する。

10) キーワード

原著論文・解説・総合報告・研究紹介・技術紹介は、英文キーワードを 5 つ以内で取り上げ、**KEYWORD:** に続けて原則小文字で書く。

11) 原稿本文

和文の場合には、常用漢字を用い、新仮名使いで記す。英文の場合には、米国綴りを推奨する。

※上記以外については、事務局より執筆依頼時に指示する。

1.2 原稿の体裁

原稿は、原則として「投稿原稿テンプレート」を会誌ホームページよりダウンロードし、原稿の長さや図の質(Web 掲載も意識)、文字の見易さなどを確認するとともに用紙の下中央に頁番号を打つこと。

http://www.sssj.org/jsssj/VSS/vss_index.html

1.3 電子ファイルの作成(Web 投稿の手引きを参照のこと)

a. 投稿原稿のテンプレートを用い、図を貼り付ける。図は鮮明であること(300 dpi 程度以上)。原稿送付は、Word 形式(.doc または.docx)(推奨)または PDF (.pdf)とする。また、投稿票、カバーレター(速報のみ)を用意する。

b. 図・表の電子ファイルは、300 dpi 程度以上で独立したファイルとして作成する。電子ファイルの拡張子は、.pdf .eps .jpeg .png .gif .jpg .tif .tiff 形式とする。査読プロセスにおいては、図表を Power point ファイル(.ppt)にまとめたもので構わないが、採扱後は独立した図表ファイルを用意する。

c. アップロードできるファイルの容量は総計 20MB とする。

2. 原稿本文作成時の諸注意

2.1 表題には、原則として略語の使用は認めない。ただし略語の併記を認める。

[例] ポリエチレンテレフタレート(PET)フィルム, ダイヤモンド状炭素(DLC), 巨大磁気抵抗(GRM), 化学気相成長(CVD)。

2.2 句読点

和文の場合には、句点は「。」, 読点は「,」を使う。

2.2 数字

本文中で使用する数字は、原則としてアラビア数字とする。位取りのコンマは付けない。

[例] 1,500 K → 1500 K

漢字やひらがなと結合し名称として現れる数字は漢数字とする。

[例] 一つ, 二重線, 三体問題

2.3 立体とイタリックの使い分け指針 (ここでのルールはあくまでも指針であるため, 論文内で統一されていれば必ずしも従わなく良い)

a. 変数を示す記号: 原則としてイタリック体とする

[例] 座標軸 x, y, z

[例] 化学式, 化学反応式の変数 $La_{2-x}Sr_xCuO$

[例] フェルミエネルギー E_F (F は Fermi を表し, 物理量ではないので立体)

[例] i 番目の原子位置 R_i (i は変数なのでイタリック体, ベクトル R は太字に)

b. ラテン語: 全てイタリック体とする。

[例] *ab initio a priori ca. e. g. et al. in vivo i. e. in situ vs. etc.*

c. 演算記号・単位: 演算記号や単位は立体とする。単位は原則として国際単位系(基本単位, 補助単位, 固有の名称を持つ組立単位含む)を使用すること。

[例] sin cos exp Δ

[例] m(長さ) s(時間:秒) min(時間:分) h(時間:時) mol(物質質量) kg(質量) K(温度) J(熱量) Pa(圧力) V(電圧) Ω (電気抵抗)

d. 元素記号・電子軌道: 立体とする。

[例] Cu, Zn, CH₃OH

[例] 3d 軌道, O 2p 準位

2.4 省略語

省略語は、最初に出てくるところで原綴りを書く。

[例] 密度汎関数理論 (density functional theory, DFT)

2.5 外国人名・地名

外国人名や地名は原綴りとする(アルファベット以外の文字の場合は, 英語に直したものをを用いること) ただし, 人名が学術語となっている場合, 日本でよく知られている地名の場合は, カタナを使うことが出来る。

2.6 脚注

本文中に *, ** などの上付き記号で示し, それが現れる頁の下部に本文とは別に脚注のためのスペースを設け, その欄に記すこと。

3. 図表

3.1 本文中, 図は Fig. 1, 2, 3(a), Fig. 3(b), …, 表は Table 1, 2, … で指し示すこと。

3.2 図や表のキャプションは英文とする。

3.3 図や表の中の文字は英字を用いること(数量記号として用いるギリシア字は使用できる)。

3.4 カラー図について

- a. 著者は、図を白黒もしくはカラーのどちらで出版するかを投稿票指定することができる。
- b. オンライン版ではカラー図を推奨する。ただし、同じ図を冊子版で白黒図に指定することが可能である。
- c. 同一図をオンライン版でカラー、冊子版で白黒とする場合、著者はカラー図と白黒図の双方を作成しなければならない。

3.5 同一図をオンライン版でカラー、冊子版で白黒とする場合の注意点

- a. 図キャプションでは、次のように color online の文言を付けること。

[例] Fig. 1 (color online).

- b. 本文中では、図に用いた色、または濃淡を指し示す解説をしてはならない。

[してはならない例 1] 赤色で示された領域は…ある。赤色で示された領域は…ある。

[してはならない例 2] 薄い太線は、…の変化を示したものである。

(注) 同一図が冊子版とオンライン版でカラーの場合あるいは白黒の場合にはこれに当てはまらない。

4. 文献

4.1 本文中では引用文献を 1) のように、あるいは 2, 3) や 4, 7) のように肩書きした番号で指定すること。

4.2 一つの引用番号に対しては一つの論文のみを引用すること。複数の引用論文を一つの引用番号に割り当てはけない。

4.3 本文の末尾に、引用した文献を対応する番号と共に一覧にして記すこと。

4.4 本文の補足説明は脚注(2.6 節参照)を利用し、引用文献欄に補足説明を付記するのは避けること。

4.5 推奨されない書き方(英和文混合は避ける)

推奨されない書き方 → 1) 例えば, H. Nakai: Chem. Phys. Lett. 363, 73 (2002) を見よ。

推奨される書き方 → 1) See, for example: H. Nakai, Chem. Phys. Lett. 363, 73 (2002).

4.6 引用文献の例

書き方は、ジャーナルの場合には「著者名：雑誌名 巻数, 開始頁 (発行年)」、図書の場合は「著者名：“書名” [エディタ名] (出版社, [出版社所在地,] 出版年) [章あるいは開始頁]」(□内は省略可)を基本とする。

原著論文、総合報告、研究紹介、実験ノウハウの引用文献は著者全員の名を明記すること。

その他、学位論文、予稿集、特許に関しては下記を参照のこと。

和文ジャーナル・和文図書・英文図書の名称は省略できない。英文ジャーナルは省略が可能である。英文ジャーナルの省略規則はアメリカ物理学会アメリカ物理学会(APS), もしくはアメリカ化学会(ACS)のホームページ頁を参照のこと。省略規則があいまいな場合には、省略せず全て書くこと。

<http://d22izw7byeupn1.cloudfront.net/files/styleguide-pr.pdf>

<http://www.cas.org/content/references/corejournals>

和文ジャーナルでは、著者名と雑誌名を英字で表記し、最後に(in Japanese)とすることを推奨するが、和文表記でも構わない。ただし、混用は避けること

- a. 和文ジャーナル
 - 1) 吉川英樹, 嘉藤誠, 境悠治, 福島整: 表面科学 **23**, 25 (2002).
- b. 英名和文ジャーナル
 - 2) 中村誠: J. Surf. Anal. **7**, 91 (2000).
 - 3) M. Matsumoto : J. Vac. Soc. Jpn., **52**, 47 (2009). (in Japanese).
- c. 英文ジャーナル
 - 4) T. Hirahara, I. Matsuda and S. Hasegawa: e-J. Surf. Sci. Nanotech. **2**, 141 (2004).
 - 5) K.L. Brogan, J.H. Shin and M.H. Schoenfish: Langmuir **20**, 9729 (2004).
 - 6) Y. Morikawa: Phys. Rev. **B63**, 033405 (2001).
- c. 和文図書
 - 7) 井口洋夫, “シンクロトロン軌道放射光” 市村禎二郎, 旗野嘉彦, 井口洋夫編 (学会出版センター, 1991).
 - 8) 藤本大三郎編: “細胞外マトリックスのバイオサイエンスとバイオテクノロジー” (アイシーピー, 2010) p. 111.
 - 9) 日本表面科学会編, “X 線光電子分光法” (丸善, 1998).
- d. 英文図書
 - 10) S. Morita, R. Wiesendanger and E. Meyer (Eds.): “Noncontact Atomic Force Microscopy”(Springer, Berlin, Heidelberg, 2002).
 - 11) H. Seki: “Electrochemical Surface Science”, ed. by M.P. Soriaga (The American Chemical Society, Washington, D.C., 1988) p. 322.
 - 12) “Surface Analysis by Auger and X-ray Photoelectron Spectroscopy”, ed. by D. Briggs and J.T. Grant (IM Publications, 2003).
- e. 学位論文
 - 13) 近藤剛弘: 筑波大学大学院工学研究科博士論文(2003).
 - 14) D.A. Mantell: Ph.D. Thesis, Yale University (1983).
- f. 講演大会予稿集(頁が無い時は, 代わりに発表番号を記載)
 - 15) 石井達也, 加藤英樹, 工藤昭彦: 日本化学会第 78 春季大会講演予稿集 I (2000) p. 322.
 - 16) 相馬清吾: 日本表面科学会第 31 回表面科学術講演会要旨集 (2011) 16Bp-01 .
 - 17) T. Murayama, Proc. of IS & T's 11th Int. Congress on Advances in Non - Impact Printing Technologies,開催地を挿入 (ex. Kyoto)(1995) p. 26.
- g. 特許
 - 18) 尾形俊昭: 特開昭 59-75205 (1984).
 - 19) J.S. Beck: U. Patent No. 5,057,296 (1991)

4.7 [オプション] DOI (Digital Object Identifier)の併記

DOI が付与されている引用文献に DOI を併記すると, リンクが付く可能性が高くなる。DOI を併記する場合, 以下の例を参考にすること。(DOI は必ずしも併記する必要はない。)

吉川英樹, 嘉藤誠, 境悠治, 福島整: 表面科学 **23**, 25 (2002), doi:10.138/jsssj/23/285.

Y. Morikawa: Phys. Rev. **B63**, 033405 (2001), doi:10.1103/PhysRevB.63.033405.

5. 英文のチェック

アブストラクや図表のキャプションは, ウェブ頁への掲載や他の雑誌に引用されることもあるため, これら英文は, 著者の責任においてネイティブによるチェックなどを行うこと。

6. 転載許可

過去に掲載(発表, 出版)された論文の全体, または図や表の一部を投稿論文で使用する際は, 著作権を有する学会等への転載許可の申請が必要である。申請は著者の責任で行うこと。

本執筆の手引きに関する意見要望は, 下記学会事務局までお申出ください。

学会事務局：公益社団法人日本表面真空学会

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル 5階

Tel : 03-3812-0266 Fax : 03-3812-2897 e-mail : hyomen@jvss.jp